

檀信徒各位

十夜法要のご案内

聖名 時下晩秋の候、専心聞法の好季節となりました。
今年も収穫の時期を終え天地の恵みを感謝する頃でもあります。
下記のように十夜法要を勤めます。

ご多忙の処とは存じますが、お繰り合わせご参詣下さいます
ようご案内申し上げます。 合 掌

平成 23 年 11 月上浣

無量寺 住職 堤 俊翁 拜
記

※期 日 11 月 23 日 (水) 勤労感謝の日

※時 間 午後 1 時より御 回 向 (普通回向)
午後 2 時よりふじゅもんえこう 諷誦文回向 (特別回向)、法 話

※布教師 大西 文生 師 (長崎教区 法樹寺)

※ご回向料

普通回向 1 霊 1,000 円以上

特別回向 1 霊 5,000 円以上 志納下さい。

初めてお十夜を迎える霊位、又は特別に志される霊位、
布教師様による諷誦文回向です。焼香をしていただきます。
お申し込みの方は事前に御連絡をお願いします。

※お供え米、お供え米料 随意志納下さい。

毎日の本尊様のお供え、お花代等にさせていただきます。

※郵便振替等で申し込まれる方も位牌型をお送り下さい。

十夜（じゅうや）法要

10月から11月にかけて、全国の浄土宗寺院でひろく行われる念仏会（ねんぶつえ）です。「お十夜」「十夜法要」「十夜講」「十夜念仏」などともいい、正しくは、「十日（じゅうにち）十夜（じゅうや）法要」といいます。もともとは陰暦の10月5日の夜から15日の朝まで、10日10夜にわたる法会（ほうえ）でした。

この法会は、浄土宗で最も大切な経典（きょうてん）の一つ『無量寿経（むりょうじゅきょう）』の巻下に、「この世において十日十夜の間善行を行うことは、仏の国で千年間善行をすることよりも尊い」と説かれていることによって、その教えを実践したもので、10日10夜にわたり不断（ふだん）念仏を称えて、別時（べつじ）の念仏を修し、阿弥陀さまのお慈悲に感謝する法要であります。

今から550年ほど前（永享（えいきょう）年間）、伊勢守平貞経（いせのかみたいらのさだつね）の弟 貞国（さだくに）が、京都の天台宗の真如堂（しんにょどう）で修したのがその始まりとされています。

その後、明応（めいおう）4年（1495）に、現在浄土宗の大本山の一つになっている鎌倉光明寺の第九世 観誉祐崇（かんよゆうそう）上人 が、後土御門（ごつちみかど）天皇に招かれ、宮中で、『阿弥陀経（あみだきょう）』の講義をされ、さらに真如堂の僧といっしょに引声（いんぜい）念仏を修し、勅許（ちよっきょ）を得て、光明寺で法要を行うようになりました。

これが浄土宗でのお十夜の始まりで、今では浄土宗の大切な法要となっています。

お十夜は、お念仏の尊さを知り、感謝の気持ちを込めてこれをお称（とな）えする大切な法会です。

今日では、その期間も10日間から5日、3日、あるいは1日と短縮されて行われていますが、この大切な念仏会に参加し、仏の国での千年の善行にも勝る善行を、ぜひ積んでいただきたいものです。

秋彼岸音楽法要 平成 23 年 9 月 23 日



ご回向の後、午後2時から住職の法話とカーラビンカ指揮者勝田友彰先生による歌唱指導がありました。参詣者の皆さんと宗歌（つきかげ）や法然

上人 800 年遠忌記念曲（いのちの理由）、ふるさとを歌いました。



彼岸の中日に、当山の秋季彼岸法要が営まれました。秋晴れのとてもよいお天気でたくさんの参詣者の方が来寺されました。

午後1時より、カーラビンカ合唱団が音楽法要を演奏して、檀家各家ご先祖の御霊を供養しました。

カーラビンカ合唱団

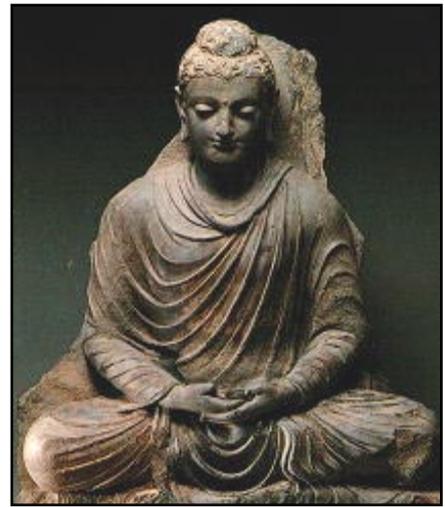
練習日

毎月2回（第2、第4木曜日）

午前10時～11時30分

音楽法要の他、色々な曲を歌っています。





釈尊の生涯

伝道

ムリガダーヴァで五人の旧友たちにさとの喜びを伝えわがち、自分の弟子とされた釈尊は、そのうち三衣（大衣、中衣、内衣）一鉢と座具と水をこす布製のふくろとといういでたちで、彼らをともしない村から町へ、町から村へと行乞しながら、家なき遍歴の生活を続けつつ伝道されることになった。

ヤシャとの対話

釈尊がムリガダーヴァにおられるころ、バーラーナシーの長者の子ヤシャが歓楽の生活にみちたりたあげくのはてに家をとびだした。彼はちよつどもリガダーヴァの林間を明け方早くそぞろ歩きしておられた釈尊にめぐり合い、よく苦難にたえしのぶ堪忍のころ、おごりたかぶらず、卑下して沈まず、むさぼりやいかりのために偏執することのない柔軟なころ、あらゆるわざわいや誘惑をたちきるころに接する教えと、偉大なる人格に接して、今までとは違つた生き甲斐を見出し、悦びのあまり釈尊の弟子となった。その後、ヤシャの両親や妻、友人も釈尊の教えをうけ、家庭生活を営みながら仏教を信仰するようになり、ここに在俗の男女の信者のつどいが成立した。

説相箱

君が代は千代に八千代に
さざれ石の巖となりて
苔のむすまで

因に天皇は「オオキミ」という。

苔のむすまで むすはむすぶまでの意で、つまり結ぶである。

言うまでもなく日本の国歌である。

古今和歌集の「賀の部」の冒頭に出てくる歌である。賀の歌、つまり長寿の祝い歌で「読み人詳しからず」となっている。

君は夫や恋人のこと

君が代の代は、竹の節と節の間を「よ」と呼び、ひとよは一代「寿命」のことで「世」ではない。おおまかな歌意は「あなたと私との間によい心が生まれ、その仲がいつまでもいつまでも、細石が巖となって苔がむすまで続きますように」という永遠の愛のちぎりを誓ったものである。まことに平和の象徴、愛の讃歌なのである。

古代人は愛する人が遠くへ行くとき、互いの下着の紐を強く結び、解けないように心を籠めたのであった。見えない心や物や事に寄せてその思いを表す（寄物陳思）が大和民族の奥ゆかしいところ愛という字は使っていないが、直接表現せず、ものに寄せて愛情を表現したのである。結ぶという事は右と左があつて成立する。男と女があつてむすばれるのである。ゆえにその縁をとりもつ神を縁むすびの神（カミムスビ・タカムスビ）といい、ムスビとは心がお産をすることで（産霊）なのである。そして生まれた子が男ならムスコ、女ならムスメとなった。

他国の国歌は、異民族との葛藤の中で生まれ、民族意識を鼓舞する勇ましいものが多い。我が国の国歌は共存共栄を夫婦の愛になぞらえて、人心の安寧や人類の共生を願ったものである。

日本の言葉は形のないものをものにしたとえて表す慣習がある。心は見えないので裏であり、うらとも言い「うらさびしい、うらかなしい、うらやましい、うらめしい、うらない」など言い表す。

古歌で「君」は女性から男性を呼ぶ言葉で、夫や恋人に対し「ワガキミ」と言った言ったことに始まる。

浄土宗福岡教区教化団発行「和順」より

14 日会 (念仏と写経の会)

写真はイメージです。

- 1、日 時 毎月第 3 土曜日但し、8 月はお休み
午後 3 時より勤行とお念仏
(日常勤行式 浄土宗のお勤め、法然上人御法語)
引き続き 写経会

※お勤めだけ、または写経会のみのご参加も歓迎します。

- 2、場 所 無量寺 2 階 本堂にて

- 3、参加費 無 料

写経用紙(和紙)は準備しております。(実費をお願いします。)

用具は各自お好みのもの

(筆、すずり、墨汁、サインペン等)をご持参ください。

筆ペンを多少準備しております。

納経をされる方は 納経料 1 巻 1,000 円をご志納下さい。

(納経料は積み立てて、観音様建立の資金といたします。)

無量寺の聖観世音菩薩は筑後 33 ヶ所観音霊場 18 番札所です。

かぞくておいしい!
かろな流 精進料理

愛媛発 秋野菜の麦味噌朴葉包み焼き

浄土宗~かるな~より

<材料>

材料(4人分)

乾燥朴葉	4 枚
里 芋	8 個
ごぼう	2 本
にんじん	1/2 本
麦味噌	100g
みりん	90cc
砂糖	50g



【 作 り 方 】

- (1) 乾燥朴葉は水をはったボールで戻しておく。
- (2) にんじんは皮をむいてもみじ型に抜く。皮をむいた里芋と軽く洗ったごぼうは 3 センチ程度に切って茹で、昆布出汁につけておく。
- (3) 麦味噌にみりんと砂糖を加え、合わせ味噌を作る。
- (4) キッチンペーパーで水分をふき取った朴歯に (3) の合わせ味噌をのせ、(2) を包んでオーブンで焼く。

日常生活の中の仏教語

有頂天(うちょうてん)

得意の頂点にあって夢中になっている心理状態を「有頂天」という。人によって喜びのてっぺんには、いろいろ差異があるけれども、それぞれがこれ以上ないという幸福感に浸っているありさまを、「有頂天になっている」というのである。

これには仏教の宇宙観がもとになっている。

仏教では、天上界を欲界・色界・無色界の三段階に大きく分けて考える。欲界はまだ欲望をたちきれない人間を含めて六天、色界は清浄で欲は離れているが、まだ物質にとらわれることのある世界で、十七天、その上に無色界の四天を数え、都合三界二十七天に分けられる。このうち、色界の最高を色究竟位天といい、ここを有(物質)の頂にある天、すなわち「有頂天」とする。しかし、無色界のように、

有を超越した精神のみの世界とちがいで、色界に属する以上は未解脱の境界であるから、修行を怠ったりすると、たちまち転落してしまうこともある、という。

一説には、天の最も高いところを「九天」とし、墮落してそこから転落することを「九天直下」と称する。世間で様子が急に變化して物ごとの結末がつくことを「急転直下」と書くが、あるいは「九天直下」から転訛したのかもしれない。

院号授与式



大施餓鬼法要の折

おひとりが院号を受けられました。

慈照院 井上 アイ 殿
おめでとうございます。井上さんは平成16年に五重相伝を受けられました。その後約7年間、法要の折に法話を聞かれて修養を積まれました。これからもご精進くださるよう祈念いたします。

無量寺コンサートのご案内

- | | |
|--------|----------------|
| 1, 期 日 | 平成23年12月23日(金) |
| 2, 時 間 | 午後1時30分開場、2時開演 |
| 3, 場 所 | 無量寺 1階講堂にて |
| 4, 参加費 | 無 料 |

平成24年 法要予定日

- | | |
|----------------|--------|
| 1月25日(水) | 御忌法要 |
| 3月20日(春分の日) | 彼岸法要 |
| 7月15日(日) | 大施餓鬼法要 |
| 8月13、15日 | 盂蘭盆法要 |
| 9月22日(秋分の日) | 彼岸法要 |
| 11月23日(勤労感謝の日) | 十夜法要 |



永代供養墓(合掌の塔)

この供養塔には、お墓や納骨堂を祀っていくお子さんや跡継ぎのおられない方、ご夫婦などが入っておられます。個人単位で骨壺のまま納骨いたします。お問い合わせは無量寺まで



メールアドレス登録

香林山 冷智院 無量寺
機関紙「こうりん」第69号
発行 平成23年11月1日
〒830-0044 久留米市本町8-4
☎ 0942-32-3010
FAX0942-32-2701